

# 富山経済同友会

会報

2023.11月  
No. 315



第10回海外教育事情視察 オーストリア・ザルツブルクにて

## CONTENTS

- 第10回海外教育事情視察 ..... 2
- 10月会員定例会 ..... 4
- 【講演録】10月会員定例会：伊藤 羊一氏 ..... 4
- 5 経済同友会教育担当委員会交流会 ..... 9
- 日本海沿岸地域経済同友会代表幹事サミット ..... 10
- 第31回経済同友会中央日本地区会議 ..... 11
- トピックス（富山県庁周辺エリアマネジメント懇話会） ..... 11
- 第2回企業経営委員会（拡大委員会） ..... 12
- 第2回地域創生委員会（県外視察） ..... 13
- 広島経済同友会との交流会 ..... 15
- スケッチオーデション（アントレプレナーシップ小委員会） ..... 16
- 第2回委員長連絡会議 ..... 18
- 第2回アスリート支援小委員会 ..... 18
- 第2回交流委員会 ..... 18
- 課外授業講師派遣 ..... 19
- 教育講演会等講師派遣 ..... 23
- 第85回あけぼの会ゴルフコンペ ..... 25
- 同友会の日（富山 GRN サンダーバース） ..... 26
- 同友会の日（カターレ富山） ..... 26
- リレーエッセイ<sup>①⑥</sup>（橋本 淳 氏） ..... 27
- 活動報告 ..... 28
- 会員の入退会 ..... 30
- 同友会の思い出（福田事務局員） ..... 32
- 慶事のお知らせ ..... 33
- 今後の予定 ..... 33
- わが青春の1枚（高野 治 氏） ..... 34





# 働くこと、生きることの意義を伝える

## — 課外授業講師派遣 —

### 第5回 富山県立砺波高等学校

8月25日(金)、尾崎浩二氏(株みずほ銀行富山支店長)、三原克久氏(三菱商事(株)北陸支店長)が富山県立砺波高等学校で開催された職業理解講座「エキスパートに学ぶ」において、1学年の生徒を対象に課外授業を行った。

#### <尾崎 浩二 氏 (株みずほ銀行富山支店長)>

尾崎支店長は「銀行の仕事について」と題し、銀行業務を切り口に、今日の経済情勢や高校時代に身に付けておくべき力など、多岐にわたって講演を行った。

尾崎支店長は最初に、基本的な金融の役目から、みずほ銀行が全国や海外に展開する意義、尾崎支店長自身の業務まで、銀行の業務に関する様々な内容について説明した。中でも、都市銀行はお金の融通を通して、地方と全国、海外の人と人とを結びつける役割を担っているという説明は強く生徒の関心を引いた。

そして、将来の進路を考える上で高校時代に身に付けておくべき力として、海外との業務に必要な英語力、提案書を作成するための国語力、人と関わるためのコミュニケーション力などを挙げた。

また、銀行で働くうえでの苦勞として、「様々な業種のことを幅広く学ぶ必要があること、数年ごとに転勤があること」などを挙げつつ、こ

れらの苦勞を「日本の産業に幅広く触れることができる、転勤の都度新しい人間関係を築くことができる」など、別の切り口でポジティブに捉える姿勢は、生徒にとって大きな学びとなった。



講話後の質疑応答の時間には、生徒たちから多くの質問が寄せられた。「大きなお金を動かす上で各種経済動向の予測を的中させるには？」という生徒の質問には、「専門家でも予測するのは難しい。銀行では、いろいろな情報を集めて、これが正しいだろうというストーリーを作るがなかなかその通りにもならないので、別のストーリーも想定し、不測の事態にすぐに対応できるように準備している。」と回答した。

#### <三原 克久 氏 三菱商事(株)北陸支店長>

三原支店長は「商社の仕事とは」と題し、「1. プロフィール紹介」「2. 商社の仕事とは？／三菱商事の業務概要」「3. 商社の仕事とは？／私の経験談」「4. 国際化するビジネス社会で役立つ力」という4つの柱のもとで講演した。

最初の商社の業務概要の説明では、商社が、従来の「会社と会社間に立ち、仲介手数料・金融手数料を得る：仲介(貿易)事業者」から、「業界全体を見渡し、取引先・投資先の競争力強化・企業価値向上を支援する：総合事業会社」へと変化してきたこと、そして、今の商社は、常に社会の課題やニーズに向き合いながら変化し、それらを解決する形でビジネスを展開していることを具体的な事業を紹介しながら説明した。また、三菱商事は、三綱領(「所期奉公」「処事光明」「立業貿易」というグループの共通理念)のもとに社会的意義ある事業取組みを進めており、これから先も地域産業と地域社会に向き

合いながら課題解決に貢献していきたいと力強く話した。

その後、豊富な海外勤務経験から、滞在各国の文化的特徴を、クイズを交えて紹介し、生徒たちは強く関心を持った。

最後に、各国における経験から得た知見をもとに「国際化するビジネス社会で役立つ力」として、「異文化への理解」「インテリジェンス(情報収集)につなげるためのコミュニケーション能力」などを挙げた。そして、「『想像』から『創造』」をキーワードとし「自由な発想を持ち、自らに限界を設けることなくチャレンジすることが大切だ」と強調、授業を締めくくった。



## 第6回 富山県立入善高等学校

9月8日(金)、富山県立入善高等学校において、1学年189名に対して、大橋聡司氏(大高建設(株)取締役社長)、川合紀子氏(有ステップアップ代表取締役)、東出悦子氏(株アイベック代表取締役)、益田貴司氏(ブリーズベイオペレーション3号(株)(ホテルグランテラス富山)執行役)、若林健嗣氏(日本海電業(株)代表取締役)の5氏が課外授業を行った。

### <大橋 聡司 氏 大高建設(株)取締役社長>

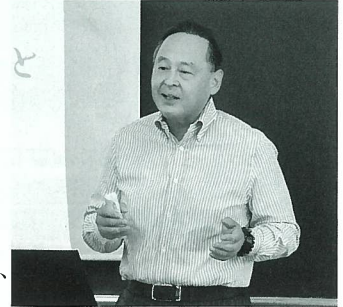
大橋社長は「働くこと、よりよく生きること」と題し課外授業を行った。

大橋社長は冒頭、自社の事業を紹介するとともに、SDGs 達成に向けた会社運営や、高度外国人材の活用、DX化・メタバース活用による働きやすい環境づくり、SNSを活用した情報発信など、自社の様々な取組み内容を紹介した。

次に、働くために身に付けておくべき力について説明した。将来多くの仕事がAIやロボットに取って代わられることが予測される中、協調性、誠実性、勤勉さ、熱意などの非認知能力、すなわち「人間力」が大切であり、特に、周りの人とコミュニケーションを取り周囲を巻き込んで協働することは人間にしかできないことだと強調した。さらに、「経験する力」も大切であると説き、失敗しても得るものが必ずあるので、失敗を恐れずにチャレンジし、どんどん失敗して失敗から学び、次に生かすことが大切だと語った。

続いて、「働く」は「傍(を)楽(にする)」ことだと紹介したうえで、「人は生きるためのお金を得る目的で働く。働くのは自分のためだが、同時に周り(顧客)のために働いて、顧客を満足させるような価値を提供することで結果として自分に良い形で返ってくる」と説明した。

最後に、よりよく生きるためのアドバイスとして、物事を多面的・長期的に考え、物事の表面ではなく根本・本質を探る、「多長根で物事を考える」べきだと語った。そして、「皆さんのこれからの人生には可能性が無限にある。自分自身で道を切り拓いて行ってほしい」とエールを送り授業を締めくくった。



### <川合 紀子 氏 有ステップアップ代表取締役>

川合代表は、「君たちはどう生きたいか」と題し課外授業を行った。

冒頭、川合代表は「君たちはどう生きるか」と「君たちはどう生きたいか」の言葉の違いについて生徒に質問し、生徒の回答を確認したうえで、「将来どうなりたいか」「どんな社会になってほしいか」「日本はどのような未来に向かっているか」を問いかけた。そして、日本の現状を「労働力人口が減少する中、政府はSociety5.0を実現し、IoT、AI、ロボットを活用して生産性を劇的に押し上げようとしている。技術の急速な進歩と共に世の中が今まで以上に急速に変化し、将来が不確実で予測できないVUCAの時代に突入する。VUCAの時代は、想定外の出来事が次々と起こり、業界の概念を覆すサービスが登場し、今までの常識が非常識になる時代だ」と説明した。

続いて、VUCAの時代を生きるために求められる力として、「自らの頭で考える力」: AIにはできない、人間の感性・経験により創造的なアイデアを生み出す能力、「OODA(ウーダ)」: 今起こっている課題を観察し(Observe)、状況

判断し(Orient)、意思決定し(Decide)、実行する(Act)、OODAのループを回すこと、などを紹介した。

そして、生徒たちが今から備えていくべき能力は、システム思考力: 複雑な関係性を理解する力、予測力: 多様な未来を理解し評価する力、協働力: 他者から学び他者と共感して問題を解決する力、批判的思考力: 先入観にとらわれずに情報を客観的に評価し、論理的に考える力であると説いた。

最後に、「様々なことに興味を持ち、日々アンテナを張って情報収集し、自分なりに咀嚼し、自分の価値観、判断基準を持ってほしい。自発的に考え、行動するよう日々心掛けてほしい。」とアドバイスをした後、「『君たちはどう生きたいか』考えてみましょう」と投げかけて授業を終えた。





### <東出 悦子 氏 ㈱アイベック代表取締役>

東出代表は、「自由に楽しく幸せに生きる」と題し課外授業を行った。

東出代表は、稲盛和夫氏の方程式「人生・仕事の結果＝考え方×熱意×能力」を紹介。熱意と能力は0から100までだが、考え方は-100から+100まであり、熱意や能力が高くて悪い考えを持っていると悪い方向に行ってしまう。良い考えを意識することが幸せに生きることに繋がると説明した。

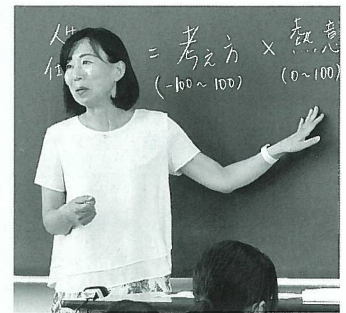
そして、熱意について、「興味のあることに取り組むときはエネルギーが湧いてきて大変な時も苦ではなくなる。目標を持ち一生懸命取り組むことで熱意が湧いてきて楽しくなる。例えば、勉強が楽しくなかったとしても『勉強すれば自分の目標に近づくことができる』と考え方を考えることで熱意を高めることができる。熱意を高めるような考え方をして人生を楽しんでほしい」と述べた。

能力については、「一人一人が大きな能力を持っているので、様々なことにチャレンジして

自分の能力を探してほしい。『自分は勉強ができないから』などと自分の可能性に制限をかけないでほしい。能力に制限はなく、選択肢は無限にある。皆さんは自由だ」と熱く語った。

また、「世界で一番大切な人は誰？」と問いかけたうえで、「一番大切なのは自分自身。だが、自分だけが良いというのはダメ。自分を大切にすると共に人を大切にし、思いやりを持ってほしい」と説いた。

最後に「マイナスな考えを持つと心が痛む。そういう気持ちで物事に取り組んでも良い結果にはならない。良い考えを持ち、目標に向かって楽しんで、自分の能力を自分で探す。これが幸せになるためにやらなければいけないことだ」とアドバイスし授業を締めくくった。



### <益田 貴司 氏 ブリーズベリオペレーション3号㈱(ホテルグランテラス富山)執行役>

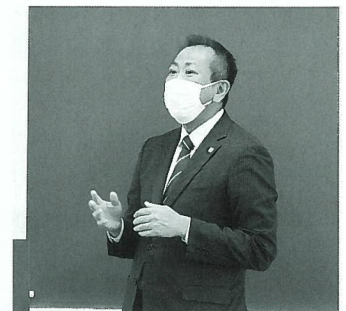
益田執行役は、「今後のホテル業と地域への貢献」と題し課外授業を行った。

益田執行役は、自己紹介の後、自身が行うホテル再生業について説明した。コロナ禍や後継者不在などで運営が難しくなったホテルを経営して利益を確保することで、雇用を守ることができる。イベントを企画して地元の人に喜んでもらったり、客に「また来たい」と思ってもらえるようなおもてなしをして再び足を運んでもらうことも地域貢献に繋がると語った。

また、今後のホテル業について、「コロナで大打撃を受けたが、既に訪日外国人がコロナ前の水準に戻りつつあり、今後も大阪万博などで訪日外国人が増える。富山にも魅力的な観光スポットが多くあるので、北陸新幹線の延伸も追い風となって多くの外国人が訪れるだろう。サービス業の求人が増えるので、皆さんの中にもサービス業に就く人がいるかもしれない」と述べた。

続いて、サービス業で働くうえで大切なことは、「おもてなしの心」、相手が思っていることを感じ取って、行動に移してあげることだと説明したうえで、生徒へのアドバイスとして、「人が困っていることに気付いたら思い切って行動に移してほしい」と自身の過去のエピソードを交えながら語った。

最後に、「高校時代は一生の友達に出会える貴重な時期。あっという間に過ぎてしまうので楽しんで充実した高校生活を送ってほしい。そして、気付いたことがあれば、小さなことでもいいから行動に移してほしい。その行動で相手や自分の人生を変えられるかもしれない」と強調し授業を締めくくった。



### <若林 健嗣 氏 日本海電業㈱代表取締役>

若林代表は、「デジタルツインから考える『自分』を生きること」と題し課外授業を行った。

若林代表は冒頭、仮想空間に現実空間の情報を複製して再現する「デジタルツイン」の技術について、「今まで人間が蓄積してきた知識や技術の結晶であり、自動運転のAI学習や医療分野への活用など期待が大きい。デジタルツインが今後どのように社会に影響を及ぼしていくと、1人の非凡な天才が生み出したものではなく、世界中の様々な動機を持つ人々が関わり合って生まれたものだ」と覚えておいてほしい」と語った。

次に、コンピュータの進歩により計算技術がめまぐるしく進歩している時代だからこそ、「人間の感覚」が求められていると感覚の大切さを説いた。「感覚は、科学では説明できず、デジタルツインでも再現できない。感覚という生き物らしい部分はデジタル化で消えていくのではなく、今後ますます大事になる。感覚とはイメージする力。イメージする力は人間の原動力。

人間の感覚と計算が相互に補い合うことで予想を超えた進歩が生まれ、デジタルツインのような高度な技術に繋がっていく」と述べた。

最後に、「感覚」の磨き方について、「感覚はデータのように積み上げて継承することはできず、人の一生の中で終わってしまう。感覚は人が生きる中で、いろいろな経験を通して磨くものであり、生きる速度に合わせてしか磨かれない。磨くことで自分の中にブレない「軸」が形成され、情報洪水の中でも流されずに『自分』を生きられるようになる。若いうちから同じ時代を生きる仲間と共に感覚を磨いてほしい」とアドバイスし、授業を終えた。

